

子どもたちの思いがこもった 1,000 本のキャンドル

犠牲となった方々を追悼し、噴火災害を後世に継承するために
1,000 本のキャンドルに灯がとまります。



高野小学校のキャンドルづくりのようす



かわうち
川内 みつきさん

「災害で亡くなられた方々が、
安らかでありますように」とい
うメッセージを込めて雲仙・普
賢岳とお花の絵を描きました。

2023

6月3日(土)

場所：がまだすドーム

19:00 キャンドル点灯

20:00 閉会（終了）

災害の記憶を後世につなぐ

いのりの灯

「雲仙・普賢岳噴火災害」の大火砕流から 6 月 3 日で 32 年を迎えます。
犠牲になられた方々に哀悼の意を表するため、献花所を設置します。

と き 6 月 3 日（土） 8 時 30 分～ 18 時

ところ 仁田団地第一公園（雲仙普賢岳噴火災害犠牲者追悼之碑）

※献花用の菊を準備しています。

黙とう 大火砕流が発生した 16 時 8 分にサイレンを吹鳴します。

半 旗 事業所などは半旗での掲揚をお願いします。

問合せ先 秘書人事課

あの日から 32 年

いのりの日

溶岩ドームの今

5月15日、消防や警察、報道関係者など約80人が参加し、平成新山防災視察登山が実施されました。防災登山は、島原市と九州大学地震火山観測研究センターが、平成新山の状態を確認するため、毎年、春と秋に実施しています。

山頂付近を調査した九州大学の松島健教授は「噴気の温度はここ10年、およそ90度。火山活動は落ち着いていてマグマ噴火の兆候は見られない。しかし、岩にはひび割れがありもろくなっているため地震や水蒸気爆発に伴う崩落には引き続き注意が必要。活火山であることに留意してほしい」と話していました。

また、溶岩ドームを24時間、監視・観測している雲仙砂防管理センターによると、溶岩ドームは、平成9年の観測開始から25年間で東南東へ約1.42m(約5.6cm/年)*移動していて、移動速度は、これまでと変わりなく、異常は見られないということです。

※令和5年1月時点



山頂付近を調査する
九州大学の松島健教授

問合せ先 市民安全課